

J **apanese text**

2019年 春/夏号 日本語編

旅館

せせらぎ

[The Ryokan Collection]

写真 = 工藤憲二 文 = 鈴木博美

p.078

湿潤な空気が日本を取り巻く夏に訪れたいのは、川の近くにある旅館。清流のせせらぎに耳を澄ませば、細やかに自然を感じ取ることで文化を育んできた日本人ならではの、風流な“音”の楽しみを体感することができる。

ときに厳しく、ときに心地よい四季折々の自然に寄り添いながら生きてきた日本人。古来より、自然の万物に神が宿っているという宗教観を礎にして歴史を育んできたからであろうか。五感を研ぎ澄ませて自然を感じ、その中にしみじみとした情緒や風流を見出してきた。なかでも日本人の“音”に対する感性は、独自性に満ちている。

日本文化の中で、総合芸術と言われている茶の湯。その茶の世界においても“音”は、重要視されている。例えば、`鳴り’と呼ばれる釜の音。侘び茶を大成させた千利休は、湯の沸き加減を、きゅうおうれん 虹音、かいがん 蟹眼、れんじゆ 連珠、ぎよがん 魚眼、しょうふう 松風と表現する細かい5段階に分け、音を温度加減の目安にした。お茶を点てるときにもっとも適した湯加減は松風。浜辺や山里に凜と立つ松の林の中を渡っていく風のような音とされる。超俗の境地を求めて、茶人たちは茶室の中で松風に耳を傾け、雄大な自然の情景に思いを馳せるのである。

そういった“音”に情緒を重ね合わせることは、日常の中にも存在する。なかでも、季節の移り変わりを“音”で感じ取るのは、日本人らしい感性だ。例えば、秋になると響く虫の音。ある脳生理学的な研究によれば、虫の音を右脳で受け止めて雑音として受け流す多くの国の人々に対して、日本人は虫の音を左脳で言語のように捉えているという。平安時代の和歌の中でも、虫の音を虫の“声”と表現しているものが数多くあり、現在でも、虫の音が聞こえてくれば風情や郷愁を感じ、季節が巡ってきたことを感じるのである。それは、虫の音に

限ったことではない。自然の恩恵を享受しながら共に暮らしてきた日本人は、風の音、雨の音、波の音……自然が奏でる音を“美”として捉えているのだ。

四方を海に囲まれた日本が、モンスーンアジアならではの湿潤な空気に覆われる夏。蒸し暑いさなか、日本人が風流で贅沢だと感じるのは、川の浅瀬を流れる水の音を意味する“せせらぎ”だ。起伏が激しい小さな島国の日本は、川の始点となる山岳から、終点となる海までの距離が短く、流れが速い。そして、国土全体を森林が占める割合が約7割と高く、その森林が水源や水質を守っているため、川の水の透明度が高い。さらさらと流れる川のせせらぎは、透明な冷たい水に触れたときの気持ちよさを思い起こさせるとともに、豊かな自然の姿を喚起させるのである。さらに日本では、透明な水を湛える川には穢れを洗い清める力があると考えられてきた。旅館に滞在して、せせらぎの音に耳を傾け寛ぐひととき。その清らかなる音は涼を呼び、周りに漂う空気、さらにはそれを聴く自分の心の中までが浄化されていくように感じられることだろう。

(p.079)

左：太平洋まで続く千歳川の流れ。白雲荘はこの川を携えるように立地している。シーズンには、夏の風物詩である蛍が見られることもある。

左下：日本建築の美しさが凝縮した離れの部屋「独歩」。3部屋ある離れの客室は、すべて温泉かけ流し露天風呂付き。

右下：溪流に面した貸切風呂。アジアンテイストの半露天の風呂に、溪流のせせらぎが心地よく響く。

(p.080)

左上：竹林に囲まれた「竹の湯」にある露天風呂「月」。湯船に浸かり空を仰ぎ見る、なんとも開放感溢れるひとときを過ごせる。

上：新鮮な海の幸や、地元産の野菜など、美味しい食材が幅広く揃う土地柄を生かした旬の創作料理も美味。

下：二階建ての特別室「あせび」の展望デッキ。刻々と表情を変えゆく空と山が織りなす景色を楽しめる。

(p.081)

右：凜とした趣を放つ数寄屋の意匠をふんだんに取り入れた「貴賓室」。上：ゲストを最初に迎える前庭の左側には、七つの滝を設え美しい水の

流れを楽しめる「七滝」がある。

下：リゾート感漂うスパゾーン。豊富な湧出量の自家源泉を使ったプールは、通年 30℃が保たれている。

白雲荘

相模湾に面し、背後には箱根山が控える風光明媚な湯河原は、古くから温泉地として愛されてきた場所。千歳川の溪流に沿って佇み、せせらぎの音を BGM にリラックスした時間を過ごすことができる。なかでも、大浴場や客室付き露天風呂、貸切露天風呂で、大自然の気配を身近に感じられるのが魅力。四季の彩りを眺めながら、渡る風に揺れる木々の葉擦れの音や川のせせらぎが至福の時間を紡ぎ出す。料理もこの宿の自慢で、ミシュランガイドに 4 年連続で掲載されている。

住所／神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 716-1

部屋数／ 17 室

山の茶屋

良質な温泉が豊富に湧き出る温泉地として名高い箱根塔ノ沢に流れる早川。その溪流を吊り橋で渡った先に位置する、竹林に囲まれた一軒宿。箱根の山々を望む、山の斜面に建てられた木造建築の客室は、民芸調のインテリアの落ち着いた雰囲気、古き良き時代の日本を感じさせる。広々とした 4 つの浴場や、露天風呂付きの 10 客室まですべて敷地内から汲み上げた自家源泉。奈良時代に発見されたという名湯を存分に楽しむことができる。東京から約 1 時間半と好アクセスなもの嬉しい。

住所／神奈川県足柄下郡箱根町塔ノ沢 171

部屋数／ 15 室

清流荘

“清らかな流れ”という意味をもつ旅館名の通り、川のほとりに立つ。昭和 12（1937）年に純和風の宿として創業し、文人や芸術家をはじめ、多くの貴賓に愛されてきた。かつて米國カーター元大統領も昼食に訪れている。6000 坪の広大な

敷地の中には豊富な館内施設があるのが特長。広い庭園や「せせらぎ野路」と名付けられた稲生沢川沿いの遊歩道をはじめ、天然温泉プールや古代ローマ式サウナ、エステルームなどリラクゼーションのための施設が充実している。天然の地魚を取り入れた創作懐石料理にも定評がある。

住所／静岡県下田市河内 2-2

部屋数／ 26 室